「こおりやまの米」通信

平成２８年３月１日

編集：郡山市
JA 福島さくら 郡山地区本部（TEL.921-0533）
NOSAI 郡山田村（TEL.933-3307）
県中農林事務所農業振興普及部（TEL.935-1310）

郡山市
イメージキャラクター
「がくとくん」

発行:郡山市農作物生産対策協議会　（郡山市園芸畜産振興課 TEL924-3761）

Vol. 1 播種準備編(床土の準備～出芽)

次回は4月上旬(育苗後半～田植編)

・市内水稲農家に塩化カリが３月末までに配布になります。
・塩化カリは、放射性セシウム吸収抑制のため、必ず基肥時に施肥(20kg/10a)してください。

天気予報（仙台管区気象台発表　２月２４日付け、３か月予報から）

時期	天　　気	気　　温
３月	平年に比べ晴れの日が少ない見込みです。降水量は、平年並または多い確率ともに４０％です。	気温は、平年並または高い確率ともに４０％です。
４月	天気は数日の周期で変わりますが、平年と同様に晴れの日が多い見込みです。	気温は、平年並または高い確率ともに４０％です。
５月	天気は数日の周期で変わります。降水量は平年に比べ少ない確率が４０％です。	気温は、平年並または高い確率ともに４０％です。

床土の準備

培土の放射性セシウム暫定許容値は４００Bq/kgです。山土等を利用する際は必ず検査を行ってください！

良い床土の条件は、**①ｐＨが４．５～５．５である、　②排水性、保水性、通気性が良い、③細かい粒子があまり多くないこと**です。各種資材で調整してください。

１　物理性、保水性はピートモスで改善できます。床土の量に対して３０％混和するとｐＨが１程度下がります。

２　育苗箱１箱当たりの施肥量は、**チッソ２ｇ、リン酸３ｇ、カリ２ｇ**とします。

１箱当たりの施肥量

肥料	例１：単肥施肥			例２：稚苗用液肥源	例３：育苗箱専用肥料
	硫安	過石	硫酸カリ	(15-19-15)	(4-8-5)
施肥量	１０ｇ	１５ｇ	４ｇ	１２～１５ｇ	４０～５０ｇ

※単肥施肥の場合、ｐＨが０．５程度下がるので注意しましょう。

種子の準備　～ばか苗病の発生が増えています。育苗中に発生した場合は抜き取りましょう～

１　わら、もみがらの除去

昨年のわらやもみがらには、いもち病菌が潜んでいる可能性があります。種子を取り扱う前に作業場やハウス内のわら、もみがらを除去し、いもち病の感染を防止しましょう。

２　塩水選（比重選）

塩水選は、発芽力が高く、病気にかかっていない種子を選ぶために必ず行いましょう。塩水選後は軽く水洗いして塩分を取り除きます。

塩水の作り方（水 10㍑当たり）

種　類	比　重	99%の食塩 (kg)	21%の硫安 (kg)
うるち	１．１３	２．１	２．７
も　ち	１．１０	１．６	２．０

３　種子消毒（例）

もみ枯細菌病の発生が懸念される場合は、消毒済み種子にも追加で消毒を行いましょう。また、未消毒種子（特に飼料用米）は必ず消毒してください。

使用する種子等	作　業　手　順	備　　考
消毒済みの種子 ＋ もみ枯細菌病の防除	塩水選⇒水洗い⇒**スターナ水和剤**（0.5%湿粉衣）⇒風乾（４日間以上）⇒浸種	◎もみ枯細菌病防除のため、28℃以下で管理しましょう。 ◎テクリードＣﾌﾛｱﾌﾞﾙは消毒済み種子には使用しないで下さい。（化学反応で薬剤の効果が弱まる可能性があります。） ◎浸漬消毒の場合、もみと薬液の容量比は1：1以上として下さい。
未消毒種子 （もみ枯細菌病防除を含む）	塩水選⇒水洗い⇒**テクリードＣﾌﾛｱﾌﾞﾙ**（200倍液24時間浸漬）⇒風乾せず浸種	

※消毒済みの種子は、ヘルシードＴフロアブルを処理してあります。

浸　種　発芽を揃えるためには、十分に吸水させること　＋　酸素を十分与えることが大切です。

1　**浸種水温**は**１２～１５℃**を目安とし、１０℃以下にしないようにしましょう。**浸種期間**は積算水温（水温×日数）で１００℃が目安です。水温１２℃の場合は８～９日程度、１５℃の場合は７～８日程度を基本とします。

2　種もみ袋は余裕をもって、種子を八分目以下に詰めます。**品種を間違えないよう、袋に品種の札をつけましょう。**

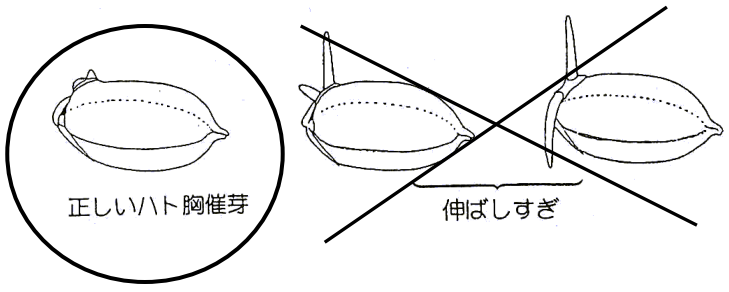
3　薬剤が流出しないよう、浸種を始めてから２～３日間は水を交換しないようにします。その後は酸素供給のため１～２日の間隔で水を交換しましょう。

催　芽（芽出し）　～温度計の併用で適正な温度管理を！～

播種前に、右図のようなハト胸の状態まで均一に催芽します。

育苗器や催芽器の温度設定は２８℃とします。
（３０℃以上ではもみ枯細菌病が発生しやすくなります）。

育苗器内では、温度ムラを防ぐため種もみ袋を薄く広げてください。



播　種　～健苗育成は薄播きがおすすめ！～

薄播きは箱数が多くなりますが、茎や根が太くなり、活着も早く、初期生育が良くなります。

1　**播種量と育苗日数の目安**

苗種	播種量（乾籾重/箱）	育苗日数	葉　齢	備　　考
稚苗	２００ｇ	20～25日	2.0～2.9	催芽もみは、乾もみの1.25～1.3倍重になります。
中苗	１００ｇ	30～35日	3.0～3.9	

厚播きにした場合・・・

【育苗期】
①苗が徒長、老化する。
②茎、根が細くなる。
③葉齢が進まない。

【移植以降】
①活着が悪く分げつが遅れる。
②根が細く根張りが悪い。
③開張せずズンドウ型のイネになる。

2　**薬剤防除（例）**

購入培土は焼土殺菌してありますが、外部から菌が侵入すると一気に被害が広がる危険があるため、下記を参考に予防してください。　（１箱当たり）

例１	【播種前床土混和】 タチガレエースＭ粉剤　６～８ｇ（１回）	✚	【播種時かん注】 ダコニール1000　500倍液0.5ﾘｯﾄﾙ（２回以内）
例２	【播種時かん注】 ダコニール1000　500倍液0.5ﾘｯﾄﾙ（２回以内）	✚	【発芽後かん注】 タチガレエースＭ液剤　500倍液0.5ﾘｯﾄﾙ（１回）

出　芽　～苗焼けには十分注意しましょう！～

1　**育苗器を利用する場合**　～温度計を併用しながら、育苗器内の温度管理をすること！～

温度設定は２８℃とします。**（３０℃以上ではもみ枯細菌病が発生しやすくなります。）**

芽は１ｃｍ以上伸ばさないようにしましょう。　**品種を間違えないよう、苗箱には名札等をつけましょう。**

2　**平置き出芽の場合**　～高温に注意！～

①　被覆資材の特徴を理解して、効果的に使用しましょう。

白色マット（保温マット等）：昼間の温度が上がりやすく苗ヤケの心配がありますが、低温時は管理しやすい。

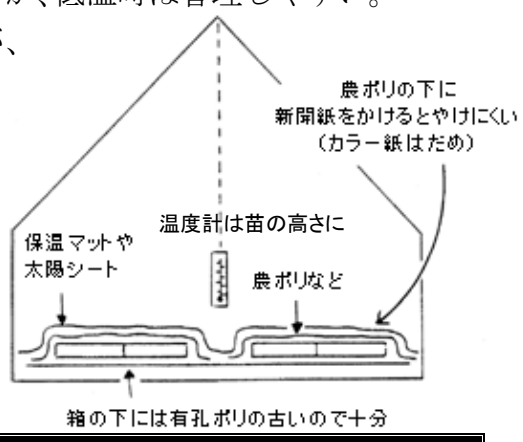
銀色のシート（太陽シート等）：温度が上がりにくいので高温時は管理しやすいが、低温時は出芽に時間がかかる傾向があります。

灰色のシートや**灰色＋白色のシート（シルバーラブ等）**
：白色と銀色の中間の性質を持っています。

②　白色マットなど透過性の良い資材は、新聞紙をシートの下にかけるとヤケ防止になります。

苗箱付近の温度が３０℃を超えないように注意しながら換気を行います。

③　シートの端にはおもりをのせるなどし、風でめくれないようにしましょう。



「ばか苗病」防止に努めましょう！

「ばか苗病」に感染した種子からは、淡い色の徒長した苗及び株が発生します。生育途中で枯死しますが、この際に胞子を周辺に飛ばし、出穂期のもみに感染します。また、種子伝染することから、自家採種を続けると減収するおそれがあります。毎年種子を購入し、種子消毒を徹底しましょう。育苗中に「ばか苗病」を発見した際は早急に苗を抜き取り、本田に持ち込まないようにしましょう。

この資料は、平成２８年２月３日現在の農薬登録情報に基づいて作成しています。